

人と森をつなぐ情報誌

林野

RINYA



2024 No.210

特集

レクリエーションの森へ出かけよう!!



Connecting people and forests



令和6年 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰



受賞者 紹介

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰とは、緑化推進運動の実施について、顕著な功績のあった個人又は団体に対し、内閣総理大臣が表彰を行うものです。

令和6年は13の個人・団体が受賞されました。本誌では毎号、受賞者の方々をご紹介します。

くらや

蔵屋自治会（島根県奥出雲町）

同団体は、「花と緑のある里づくり」を目指し、地区内を通る主要地方道沿いを「蔵屋ツツジ&アジサイロード」として整備してきました。平成5年から、苗木の植栽を進め、維持管理を継続して行っています。また、平成22年からは地域の小学生や老人会と協力しながら沿線約2kmにわたりマリーゴールド等の花苗を植栽し、除草・清掃等を行うなど、世代間交流を図りながら地域の緑化・美化に取り組んでいます。季節ごとに咲く花々は、棚田が広がる同地区の美しい景観に彩りを添え、訪れる人々の目を楽しませています。



花苗の植栽活動



蔵屋自治会の皆さん



蔵屋ツツジ&アジサイロード

過去の受賞者については林野庁Webサイトをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson_ryokka/hyosyo/index.html



人と森をつなぐ情報誌



2024
No.210

表紙の写真：紅葉に彩る阿寺溪谷 提供：大桑村観光協会

Webアンケートにご協力をお願いします！

<https://www.contactus.maff.go.jp/rinya/form/kouhou/202409.html>



Contents

- 3 **特集** 「レクリエーションの森」へ出かけよう！
- 7 **TOPICS 01** 森林の仕事ガイダンスに参加しませんか
- 8 **TOPICS 02** 「緑の募金」を活用した能登半島地震被災地の支援
- 10 **TOPICS 03** 2024年上半期の木材輸入実績
- 12 **新しい林業** 持続可能な林業を実現するOSUMIモデルの構築及び
再造林が保証された国産立木マーケットへの供給方式の実証
- 14 **フォレスター（森林総合監理士）活動書記** 地域への貢献 ～民有林行政への協力・支援を目指して～
- 16 **国有林野事業の取組** 国民に親しまれる、多様な森林の維持・管理に向けた取組について
- 18 **TOPICS 04** 令和6年度こども霞が関見学デーを開催しました！
- 19 **みどりの大使が行く！** 第55回岩手県緑の少年団大会



特集 レクリエーションの森 へ出かけよう!!

日本の国土の多くは、豊かな森林につまれています。

林野庁では、みなさまに広く森林に親しんでいただけるよう、優れた自然景観を持ち、森林浴や自然観察など自然とのふれあいに適した国有林を「レクリエーションの森」に設定しています。

その中から特にお薦めする7箇所のうち、3箇所をご紹介します。(そのほかの4箇所については、4月号を参照ください。)

※記事で紹介した施設やイベントの営業・開催状況については、事前に主催者のWebサイト等でご確認ください。

お出かけできないときは、
WEBサイトで楽しんでみませんか？

レクリエーションの森のうち、特に景観が優れた93箇所を『にっぽん333日本美しの森 お薦め国有林』に選定しており、こちらからご覧になれます。

▶レクリエーションの森：林野庁



ドローンによる空撮映像はこちらをご覧ください。

▶ドローン空撮映像：林野庁



写真

左上：東北局／ブナ林散策で紅葉を満喫 右上：関東局／夢の吊り橋
下：中部局／エメラルドグリーンに染まる阿寺渓谷



白神山地・暗門の滝 自然観察教育林

青森県西目屋村

静と動が織りなす悠久の森

しら しみ ち あんもん たき
「白神のブナ林」と「暗門の滝」

概要

白神山地・暗門の滝自然観察教育林は、日本で初めて登録された世界自然遺産地域「白神山地」の青森県側にあり、弘前市内から車で1時間ほどの西目屋村に位置しています。

東アジア最大級のブナ林が広がる自然観察教育林内に整備された「世界遺産の径ブナ林散策道」を巡ると、白神のブナ林の「静」が、暗門の滝へ向かう切り立った渓谷沿いの「暗門渓谷ルート」では溪流や滝の「動」が楽しめます。隣接地には観光案内所や温泉・レストランが併設された「アクアグリーンビレッジANMON」が整備されています。

楽しみ方

「世界遺産の径ブナ林散策道」は、遊歩道や階段が整備されており、白神山地のブナ林を満喫しながら老若男女が自分のペースでゆっくり散策できます（1周約2km、60分から90分）。

「暗門渓谷ルート」は、秋には紅葉の素晴らしい景観が楽しめます。下流側から暗門第3、第2の滝まではヘルメット（協力金受付所でレンタル可能）を着用していただくようお願いしています。その先の第1の滝までは歩道はなく、体力に自信がある登山上級者向けのコースとなるため、しっかりした装備とガイドの同行が必要になります（アクアグリーンビレッジANMONのWebサイトをご確認ください）（暗門第3の滝まで往復約5km、約90分）。

なお、暗門渓谷ルート全体が沢沿いルートのため、大雨・増水時は入口から通行止めになります。事前に天気予報を確認し、十分にお気を付けください。



秋のブナ林散策



紅葉見ごろの暗門第2の滝



紅葉のブナ林

アクセス

自動車の場合

大鰐弘前ICから車で約1時間



公共交通機関の場合

JR弘前駅から弘南バス直行便で約1時間10分
※6～10月限定

参考URL

西目屋村Webサイト 白神・観光

https://www.nishimeya.jp/shirakami_kanko/index.html



白神山地ビジターセンター

<https://www.shirakami-visitor.jp/>



アクアグリーンビレッジANMON

暗門渓谷ルート(暗門の滝)

<https://www.anmon-shirakami.com/trekking/b1.html>



飛竜橋自然観察教育林/ 千石平風致探勝林

静岡県川根本町

みやま

深山が織りなす

コバルトブルーの渓谷美

概要

雄大な自然が残されている南アルプス南部に位置しており、年間平均気温は11℃と冷涼、年間降水量は3,000mmを超える多雨地帯です。ブナ、ミズナラなどを中心とした天然林が多くみられるほか、カモシカ、ツキノワグマなどの哺乳類、クマタカ、ヤマガラなどの鳥類がみられるなど、多種多様な野生生物が生息しています。奥大井県立自然公園、南アルプスユネスコエコパークにも指定されている地域です。

ひりゅうきょう
〔飛竜橋自然観察教育林〕

すまたきょう
寸又峡として有名な当地域は大井川上流域の支流である寸又川と大間川の合流部に位置しており、急峻なV字渓谷は素晴らしい景観となっています。コバルトブルーのダム湖に架かる「夢の吊り橋」（高さ8m、長さ90m）から眺める特徴的な自然の造形美は、別世界にいるようです。

せんごくたいら
〔千石平風致探勝林〕

日帰りハイキングや登山等の起点となる山犬段は、稜線部にありながら平坦で眺望に優れ、赤石山脈の雄大な景観が広がっています。

楽しみ方

飛竜橋自然観察教育林

当地域にはメインルートであるプロムナードコースをはじめ複数のハイキングコースがあり、一般車両の通行が規制されているので、日常では味わえない大自然をゆっくりと満喫することができます。SNSへの投稿が多いスポットとしても有名な夢の吊り橋、飛竜橋などからは、深山とダム湖が織りなす幻想的な風景を堪能することができます。ハイキングの後は寸又峡温泉でゆっくりと汗を流すと最高です。また、かつての森林鉄道の廃線跡を散策することができ、当時

千石平風致探勝林

山犬段からは蕎麦粒山、高塚山への日帰りハイキングを楽しめるほか、山犬段及び千石平付近ではヤマザクラやシロヤシオなどの花や紅葉狩りが楽しめます。

シロヤシオ



千石平

アクセス

飛竜橋自然観察教育林

- ・大井川鐵道新金谷駅から電車で約67分→千頭駅からバスで約45分→寸又峡温泉から徒歩で約25分
- ・新東名高速道路 島田金谷ICから車で約90分→寸又峡温泉から徒歩約25分

千石平風致探勝林

- ・大井川鐵道新金谷駅から電車で約50分→田野口駅からタクシーで約50分
- ・新東名高速道路 島田金谷ICから車で約90分

参考URL

川根本町観光協会

<http://www.okuooi.gr.jp>



夢の吊り橋

あてら 阿寺風致探勝林

長野県大桑村

阿寺ブルーと紅葉のコントラスト
エメラルドグリーンの美しい清流
と紅葉に染まる木々の鮮やかな
絶景が楽しめる！

概要

阿寺風致探勝林は、長野県の南部にある大桑村の阿寺溪谷^{おおくわむら}に位置しています。木曽川支流の阿寺川一帯は阿寺溪谷と呼ばれており、風光明媚な溪谷が約15kmに渡って続いています。

木曽ヒノキをはじめとする木曽五木や100年を超えるヒノキ人工林に覆われ、雨が降っても濁らないといわれる清らかな水が、ある所では滝となり、ある所では深い淵を造りながら流れています。淵は、吸い込まれるような深いエメラルドグリーンに染まり「阿寺ブルー」とも呼ばれ、訪れた人々を魅了しています。

楽しみ方

溪谷沿いの林道からは、「犬帰りの淵」や「千畳岩^{せんじょういわ}」と名付けられた点在する景勝地を巡ることができ、新緑の季節から紅葉の季節まで、多くの人々が訪れています。溪谷の一部には、2つの吊り橋をつなぐ遊歩道が整備されており、「六段の滝」を目の前で見することもできます。秋には、エメラルドグリーンに輝く川面と谷間を彩る紅葉が訪れた人の目を楽しませてくれます。

また、溪谷の奥には阿寺溪谷キャンプ場があり、紅葉を見ながらキャンプを楽しめます。

キャンプ場の付近に「美顔水^{びがんすい}」といわれる湧き水があります。その昔、山を管理するために尾張藩から派遣された役人たちの奥方が、この水で顔を洗ったところ、見違えるほど美しく色白になったという話が伝わっています。溪谷を訪れた際にはお試しください。



美顔水



千畳岩



犬帰りの淵

アクセス

自動車の場合

岐阜県中津川市側より 中津川ICから車で約45分
長野県松本市側より 塩尻ICから車で約90分

公共交通機関の場合

JR野尻駅から阿寺溪谷入口：タクシーで約7分、
または徒歩で約20分

※阿寺溪谷では環境保護及び交通渋滞対策として、7月中旬より9月下旬までの間については、下記のとおり終日車両進入規制を実施しております。詳細については大桑村公式Webサイトの「阿寺溪谷に来訪される皆様へ」をご確認ください。

〔規制期間〕

- ・令和6年9月14日(土)から9月16日(月・祝)まで
- ・令和6年9月21日(土)から9月23日(月・祝)まで

参考URL

大桑村公式Webサイト(観光)

<https://www.vill.okuwa.lg.jp/kanko/index.html>



もり 森林の仕事ガイダンスに 参加しませんか

一度に全国各地の情報収集が可能! 知りたい地域情報も手に入る!
森林・林業に興味がある方は、是非この機会をご活用ください。

無料

森林の仕事ガイダンスは、新たな林業の担い手の確保を目的に、林業への就業に関心を持つ方を対象に実施する説明・相談会です。会場では全国各地の林業に関する情報、林業作業の内容や就業までの流れについての説明に加えて、参加者が抱えている地域生活の疑問などについて相談に応じます。

令和6年度は、「ふるさと回帰フェア2024」に合わせて、全国の都道府県が参加する全国版ガイダンスを9月21日、22日に東京都（東京国際フォーラム）で開催予定のほか、都道府県などの地域単位でのエリアガイダンスも全国25会場において開催予定です。エリアガイダンスの中には、林業の現場を実際に見学するマッチングの支援も実施しています。

ガイダンスでは現役フォレストワーカー（林業作業士）によるトークショーや、安全衛生装備の展示・試着コーナー、チェーンソー作業が体感できるVRや高性能林業機械のシミュレーターの体験、木製品に触れられるコーナーなど、楽しく林業について学べるイベントもたくさんあります。

いずれも参加費は無料ですので、少しでも森林・林業に興味がある方は、お気軽にご参加ください。なお各ガイダンス等の参加には事前予約が必要な場合がありますので、「緑の雇用 RINGYOU.NET」から気になる会場の開催情報をチェックしてください！（開催情報の詳細は随時更新されます。）

なお上記とは別に、皆様のご都合に合わせて相談できる林業就業オンライン相談も同様に「緑の雇用 RINGYOU.NET」で随時受け付けておりますので、ご関心のある方は申し込みフォームからご応募ください。

全国の情報収集をしたいなら…

全国版ガイダンス 9/21～22 東京国際フォーラム ホールB5

<https://www.ringyou.net/recruit2024/>



地域の情報を知りたいなら…

エリアガイダンス 全国25会場 いずれも参加費無料

ガイダンスの開催情報等はこちらでチェック!

緑の雇用 RINGYOU.NET (<https://www.ringyou.net/>)



フォレストワーカートークショー



説明・相談会

「緑の募金」を活用した 能登半島地震被災地の支援

はじめに

令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」により、能登地方の各地で家屋の倒壊など甚大な被害が発生しました。この地震により亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に対しまして、心より深くお見舞い申し上げます。

本稿では、皆様から寄せられた「緑の募金」を活用した被災地支援の取組を紹介します。

「復旧支援使途限定募金」

（公社）国土緑化推進機構では、「春の募金期間」（1月15日～5月31日）に合わせ、地震災害被災地の復旧・復興に向け、被災地支援に使途を限定した「復旧支援使途限定募金（地震被害）」の呼びかけを行いました。東日本大震災や熊本地震等の被災地の復旧支援に取り組んできたノウハウを活かし、緑化や間伐材等の利用を組み合わせ被災地の生活環境の向上・復旧等を長期的に支援していくこととしています。

さらに、「みどりの月間」（4月15日～5月14日）の開始に合わせて、石川県緑化推進委員会等と連携し、地震により大きな被害を受けた能登ヒバの関連産業の復旧・復興支援も見据えて、能登ヒバを使用し、石川県内で加工された「チャリティ・ピンバッチ」を制作し、募金に協力いただいた皆様にお渡ししています。令和6年5月末までに約750万円に上る募金が

寄せられ、被災地の支援に役立てられています。



能登ヒバチャリティ・ピンバッチ

組手^{くでじょう}仕^しの提供

多数の家屋が被害を受けた地域では、避難生活が長期化する中で生活環境の向上が重要となります。全国

緑の募金

戦後の荒廃した国土に緑を取り戻すことを目的とし、昭和25年に「緑の羽根募金運動」として開始されました。平成7年には「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」により法制化され、（公社）国土緑化推進機構、都道府県緑化推進委員会により募金活動が実施され、造林、間伐等の森林整備等に役立てられています。

から寄せられた支援物資の整理や生活用品の整理等に役立ててもらったため、「緑の募金」を活用して、間伐材等を使用した組立什器である「組手仕^{くでじょう}」を避難所等に提供する取組が行われました。

支援には、石川県をはじめ、宮城県、栃木県、岐阜県、愛知県、滋賀県の生産者等から提供された国産材（スギ・ヒノキ）の組手仕^{くでじょう}が用いられています。（公社）石川県木材産業振興協会等が中心となって避難所からの要望のとりまとめや組手仕^{くでじょう}生産者等との調整を行い、発災から約半年となる6月末までに5市町（金沢市、七尾市、輪島市、珠洲市、能登町）に所在する避難所、支援物資の集配拠点、仮設住宅等30箇所以上に約3万本の組手仕^{くでじょう}が届けられました。組み立ては親子や友達同士で楽しみながら行われ、支援物資の整理棚や下駄箱として活用されました。また、NPOと連携し、仮設住宅入居者とともに棚作りを行うワークショップも開催しています。被災者からは組手仕^{くでじょう}の利便性に加え、木の香りや温もりを喜ぶ声が寄せられています。

【組手什とは】

長さ約2m×幅40mm×厚さ15mmの間伐材等に、“組手”とよばれる溝加工が施されており、数本～数十本を組み合わせて収納棚など様々な用途で利用が可能です。

特徴① 何でも作れる！

避難所の状況や、避難者の多様なニーズに合わせて、カットしたり組み合わせたりして、自由に棚などを作ることができます。

特徴② 誰でも作れる！

コツさえ掴めれば、小学校低学年からご高齢の方まで組み立てることが可能です。

特徴③ 何度でも使える！

接着剤や釘を使わないため、形を変えて再利用できます。

例：避難所の支援物資整理棚→仮設住宅の本棚



組手什



支援物資(衛生用品等)の整理棚



避難所の下駄箱

支援の事例

■矢田郷地区コミュニティセンター (七尾市)

土足で利用されていた避難所を、衛生管理の観点から土足禁止とするため、避難者や災害ボランティア等が協力して236名分(13台)の下駄箱を組み立てました。



■仮設住宅団地(輪島市)

居住スペースの限られる応急仮設住宅の住環境改善を目的として、入居者と災害支援ボランティアが一緒に棚を作るワークショップを開催。多くの世帯から参加者があり、組手什を活用した棚の製作を行いました。



今後の取組

今後は、花壇や共同菜園に利用できる種苗や苗木の提供を行うほか、地域材を活用した組立式の木製プラントーやベンチ等の製作ワークショップを開催し、仮設住宅団地・復興商店街等における緑化支援を行っていきます。これらの活動を通じて、被災者同士の交流や生きがいづくり、コミュニティの再生等、息の長い支援を続けていくこととしています。

2024年上半期の木材輸入実績

2024年上半期（1～6月）は、輸入額では2023年同期比とほぼ横ばいの2%増となっており、輸入量では丸太が減少した一方で、製材や合板、集成材が軒並み増加しました。

本稿では、2024年上半期における木材輸入の実績を輸入額と品目別輸入量に着目して紹介します。

1 木材輸入額

本年上半期（累計、以下同）の木材（HS44類）輸入額は、前年同期比2%増の7,076億円でした。国別に見ると、米国が同8%減、オーストラリアが同14%減となりました。その一方で、ベトナムが同5%増、EUが同10%増、インドネシアが同9%増、マレーシアが同10%増となりました（図1）。米国の丸太輸入及びオーストラリアのチップ輸入の減少、EUの製材及び集成材輸入、並びに、インドネシアとマレーシアの合板輸入が増加したことが、輸入額の増減に影響しました。その中で、ベトナムは

図1 2022年～2024年の上半期における木材輸入額

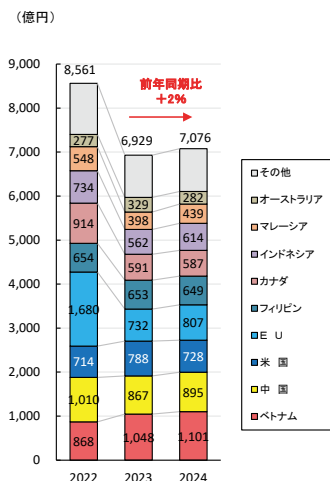


図2 2022年～2024年の上半期における品目別木材輸入量

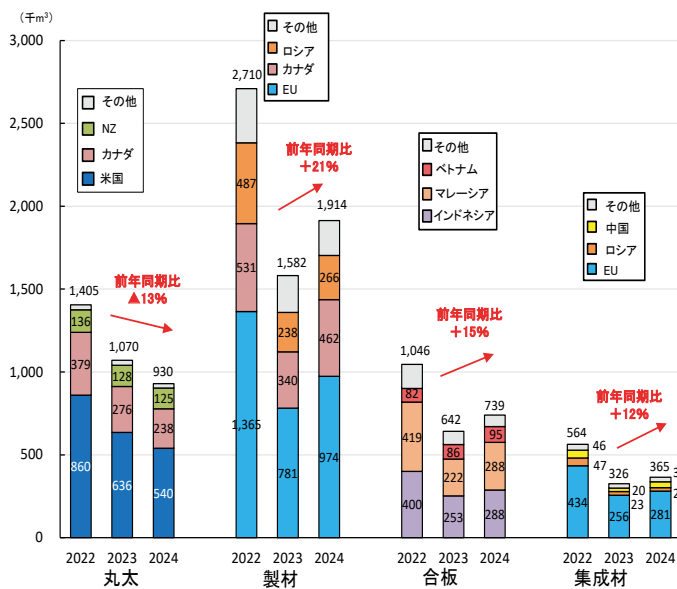
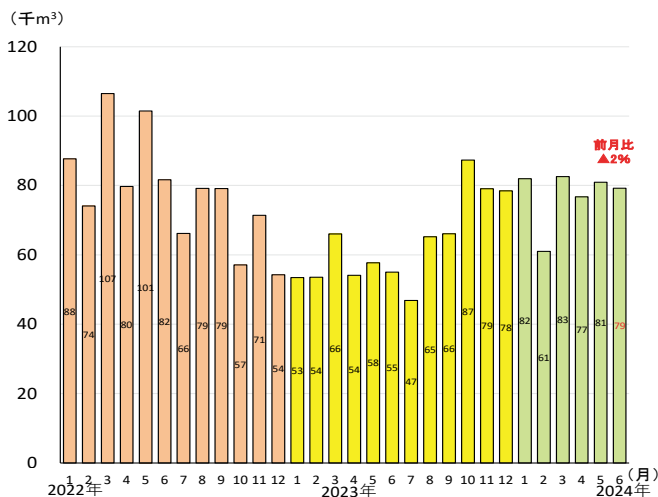


図3 カナダからの月別製材輸入量



木質ペレットの輸入量が増加していることなどから、昨年に引き続き輸入額では1位となりました。

2 丸太

丸太輸入量は、前年同期比13%減の93・0万m³でした。国別に見ると、米

3 製材

製材輸入量は、前年同期比21%増の191・4万m³でした。国別に見ると、E

国が同15%減の54・0万m³、カナダが同14%減の23・8万m³、NZは同2%減の12・5万m³となりました（図2）。

Uが同25%増の97・4万m³、カナダが同36%増の46・2万m³、ロシアが同12%増の26・6万m³となりました（図2）。

各国の製材輸入量を月別に見ると、

カナダは、2024年上半期（1～6月）は概ね8万m³で推移しており、前年同月比で増加が続いています。EUは

※毎月の木材輸入実績は、翌々月の上旬に林野庁ウェブサイトに掲載しておりますので、是非御活用下さい。
https://www.rinya.maff.go.jp/j/boutai/mokuzai_yunyu_genjou.html



※グラフは全て、財務省「貿易統計」から作成。

図5 ロシアからの月別製材輸入量

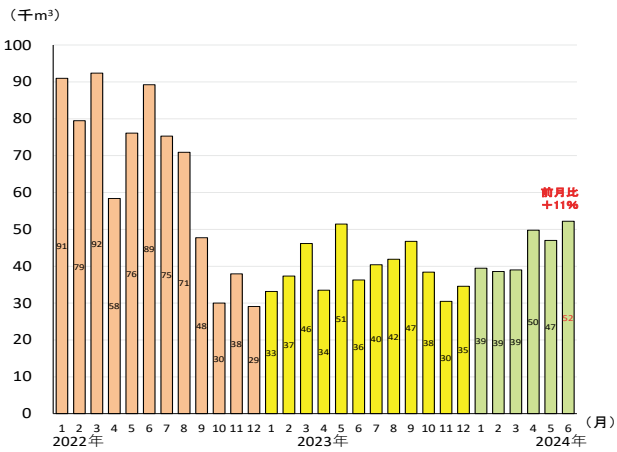


図4 EUからの月別製材輸入量

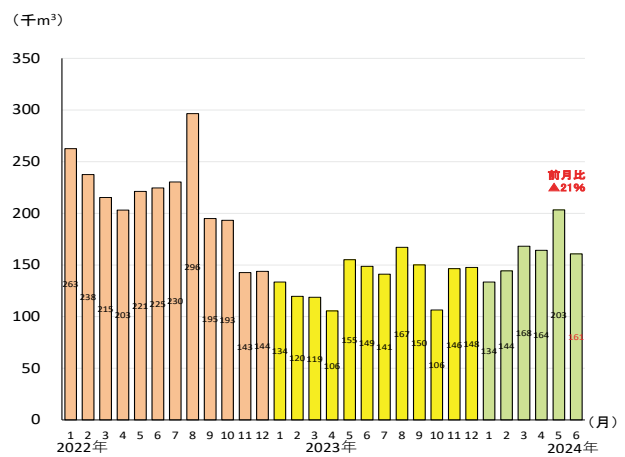


図6 合板の月別製材輸入量

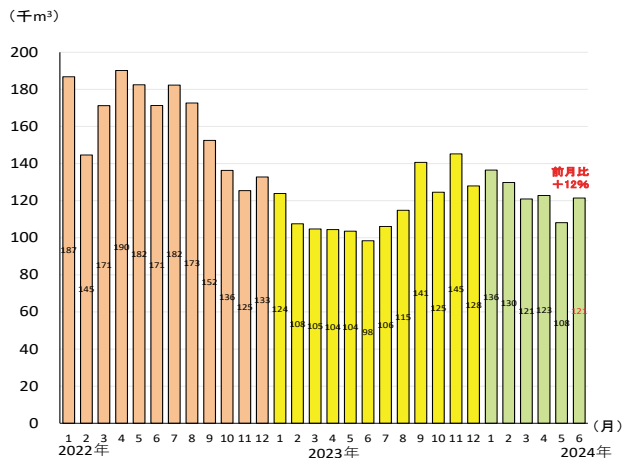
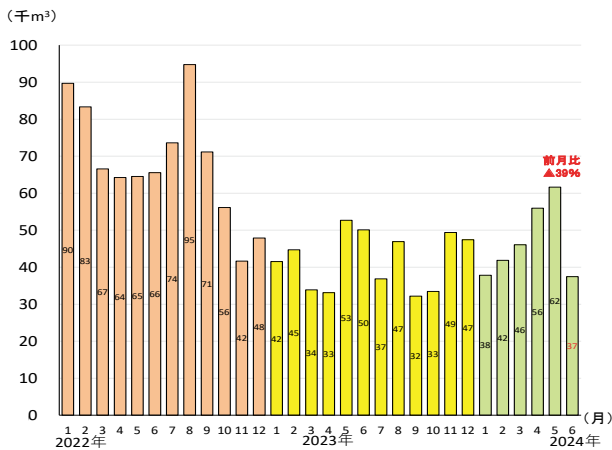


図7 EUからの月別集成材輸入量



2024年上半期は概ね13〜16万m³で推移、ロシアは2024年上半期で概ね4〜5万m³で推移しています(図3、4、5)。

4 合板

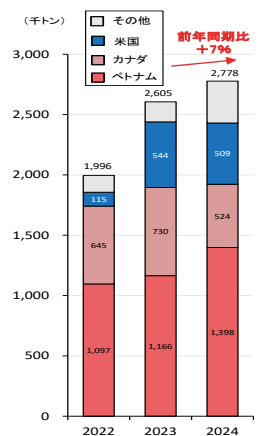
合板輸入量は、前年同期比15%増の73・9万m³でした。国別に見ると、インドネシアは同14%増の28・8万m³、マレーシアは同30%増の28・8万m³になりました(図2)。合板は2024年1月以降、前年同月比で増加が続いています(図6)。

集成材輸入量は、前年同期比12%増の36・5万m³となりました。国別に見ると、EUが同10%増の28・1万m³で、全体の77%を占めています(図2)。このうち構造用集成材も同様に、輸入量は同12%増の31・4万m³、そのうちEUが同9%増の27・3万m³となりました。

EUからの輸入量を月別に見ると、2024年1月以降は増加傾向にありましたが6月は前月比39%減の3・7万m³となりました(図7)。

5 集成材

図8 2022年～2024年の上半期における木質ペレット輸入量



木質ペレットの輸入量は前年同期比7%増となりました。木質ペレットの主要な輸入国はベトナム(50%)、カナダ(19%)、米国(18%)です(図8)。

6 木質ペレット

おわりに

一昨年の後半ごろから続いていた木材輸入量の減少傾向は、2024年1月以降からは、品目別に見ると製材や合板、集成材の輸入量で増加傾向に転じています。

林野庁では、今後も引き続き、木材輸入の動向を注視し、関係する情報を積極的に公表してまいります。



持続可能な林業を実現するOSUMIモデルの構築及び 再造林が保証された国産立木マーケットへの供給方式の実証 —OSUMI(Oosumi Sustainable forest Management Initiative)モデル—

林野庁では、令和4年度予算で「新しい林業」に向けた林業経営育成対策として、経営モデル実証事業を実施しています。今月号では、鹿児島県の取組を紹介します。

はじめに

鹿児島県大隅地域は、鹿児島県内の素材生産量の4割を占める50万m³を生産する大木材供給地です。また、大型製材工場の本格稼働、CLTや国産材2×4工法部材の生産、志布志港からの木材輸出などの旺盛な木材需要に対応するため、安定的な供給体制の構築を図ることが課題となっています。そこで、大隅地域の6つの事業者（株式会社岡本産業、上野物産株式会社、駿河木材有限会社、山生産業株式会社、大隅森林組合、山佐木材株式会社）と鹿児島大学を支援機関として、大隅地域で持続可能な林業を実現するための先進林業モデル

（OSUMIモデル）の構築を目指しました。OSUMIモデルでの持続可能な林業とは、主伐後の確実な再造林による森林資源の保続、次世代の林業経営や従事者のための安全な林業の実現に向けて、機械伐倒主体の素材生産システムや低密度植栽等の導入、ウエブ需給マッチングにより、稼げる林業とすることです。

実証成果

機械伐倒主体の素材生産システム

本事業ではチェーンソー伐倒を行わない素材生産システムの構築を目指しました。林業労働災害の大半はチェーンソーによる伐倒時に発生しています。本実証では、フェラーバンチャーザウルス（参加事業体所有）による森林作業道の作設とロングリーチハーベスタ（日立建機日本製FL135USL-6+ハーベスタヘッドH412）あるいはロングリーチグラップルソー（Forest製M12）による伐倒・木寄せ・植積みを行いました。その結果、従来であればチェーンソーによる先行伐倒

を行う事業地において、面積割合で78・6%を機械伐倒に置き換えることができました。災害リスクを減らすことができました。木寄せ・植積みではヘッドの到達距離を長くすることで、機械の移動が少なくなり、作

業を早く進めることができました。さらにロングリーチグラップルを地寄せにも使用することで、機械移動を減らすことによって、作業効率が上昇しました。



ウェブ需給マッチングシステム

マーケットイン型木材需給体制の構築に向けてウェブ需給マッチングシステムとして、木材加工業者が必要とする素材の規格やサイズ数値、価格等の発注情報「需要者入力マトリクス」を提示し、素材生産側は発注情報に基づいて生産する仕組みを協議しました。システムの運用までは至りませ

んでしたが、需給マッチングによるコストの削減について参加団体において共通の認識とすることができました。

機械下刈りに向けた低密度再造林

林野庁の「低密度植栽技術導入のための事例集（2022年3月改訂）」では、2500本植栽に比べて1600本での下刈りは作業時間が6%削減される

事例があります。今回の事業ではスギを1ha1500本の低密度植栽とし、植栽コストを下げることができました。また、2・5m等間隔植えの場合1600本植栽となるところを、1・9m×3・5mと下刈り機械の導入が可能となるような植栽幅としており、今後の下刈りコストの低減を図っています。

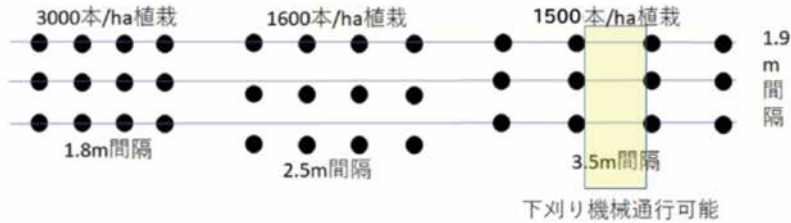
再造林技術（植栽密度の低減）

○主伐から再造林までを連続的に取り組む一貫作業システム。

素材生産で利用するロングリーチによる機械地拵え。

○通常のコンテナ苗（300cc程度）として育苗。

1,500本/haでの低密度植栽。



ICTハーベスタ(ロングリーチ)

本事業の事業成果
報告書はこちら

令和4年度



令和5年度



今後の取組

これまでの事業で、参加事業体が連携して地域材を安定的に生産する体制を構築することができました。また、木材加工業者の需要と素材生産側での供給におけるミスマッチの解消やタイムスケジュールの課題について、認識を共有できてきているため、木材加工業者の需要を素材生産側へダイレクトに要求するマーケットイン型の体制への展開を見据えることができました。今後はさらに持続可能な木材生産を実現する協働体制で再造林を担保する木材生産システムへの展開を考えています。一方で、機械伐倒による素材生産においては作業道作設による崩壊リスクを評価し、安全な環境で生産できるための基準が必要になっています。安全性を担保した持続可能な木材生産に向けて、引き続き協議を進める予定です。



地域への貢献く民有林行政への協力・支援を目指して

北海道森林管理局森林整備部

技術普及課長補佐

木村 雅代

はじめに

令和4年度から令和5年度まで北海道森林管理局空知森林管理署で勤務し、管内民有林と連携し森林施業を推進する業務に携わったことをきっかけに、昨年森林総合監理士の資格を取得しました。現在所属する北海道森林管理局技術普及課では、各種研修や会議等を通じて林業知識の普及と地域林業を牽引する森林総合監理士等の登録促

進と資質向上を目的とした人材育成を図っていますので、これまでの現場業務や現在の活動事例を紹介します。

人材育成の取組

当課で森林管理署の若手や中堅職員を対象に実施している「民有林支援・連携推進研修」では、グループワークを取り入れ国

握の重要性や市町村への林業技術支援の必要性について研修生同士で考え、意見やアイデア等を共有し、プレゼンする内容となっています。研修前と研修後では研修生の民有林支援・連携に対する意欲が大きく向上しており、その様子を間近で感じることができるとはうれしい限りです。

また、年に2回開催する「民有林連携推進会議」では森林管理署等の民有林支援・連携担当者から地域課題の解決に向けた取組概要と取組成果について、具体的な事例を交えたプレゼン資料を作成報告してもらうこととし、各署における効果的な市町村支援に向けた指導を行っているところです。



「民有林支援・連携推進研修」



「民有林連携推進会議」での各署の取組報告

■各署における地域課題の解決に向けた重点取組

国有林フォレスターが中心となり署ごとにテーマを設定
地域の課題解決に向け民有林と国有林が連携し一体的に推進

R6年度



令和6年度各署等における地域課題の解決に向けた取組(全体概要、計画画)

地域林業の活性化に向けた取組

(1) 地域林業関係者との連携

空知森林管理署では、市有林と国有林が一体となり、効果的な路網の整備及び効率的な森林施業の実施に取り組むことを目的として、令和5年3月に芦別市と「芦別市落辺地域森林整備推進協定」を締結しました。

同年9月には本協定に基づき、地域の林業関係者と適切な森林整備の在り方について深く考えていく機会の場合として勉強会を開催しました。



芦別市落辺地域森林整備推進協定調印式

勉強会には、近隣の市や地元森林組合にも参加いただき、民有林、国有林双方の現場を見学し、間伐の方法だけでなく、森林作業道、土場の設定、丸太や末木枝条の販売方法、林道の維持管理等について幅広く意見交換を行いました。

(2) 林業技術の提供

国有林では造林作業の担い手不足や造林事業量の増加に対応するため、伐採から造林までの一貫作業システムの導入やコンテナ苗の普及など、造林作業の軽労化に取り



間伐直後の人工林(国有林)で勉強会

組んでおり、民有林への技術の提供による普及を図っています。

令和5年度は関係市町や振興局、森林組合を対象に、ラジコン草刈り機による下刈り作業の現地見学会を開催し、刈払い機による人力作業が主体の下刈り作業について、機械による軽労化への取組に関する情報を共有し、普及を図りました。

見学会に出席した市町の林務担当職員からは、「機械下刈りを見据えた植付設計を行っていることが印象に残った。」「労働力軽減の面では成果は大きいですが、効率面では刈払い機の方が早いと感じた。」等の感想が寄せられました。



ラジコン草刈り機現地見学会

(3) 課題解決に向けた取り組みの成果・今後の課題

見学会や勉強会を通じて地域の林業関係者が国有林の技術に触れ、「新しい林業」に向けた知識を深めることができ、国有林職員にとっては自身も含め民有林行政について理解を深めるきっかけとなりました。今後は地域の森林における多面的機能の高度発揮や資源の循環利用を図っていくため、これまで各機関が行ってきた森林整備の進め方、販売方法等を踏まえ、関係者が一体となって「施業の集約化」や「新しい林業」に向けた具体的な取組を模索していく必要があると考えています。

おわりに

森林総合監理士としては新米ではありますが、様々な経験を積んでいく中で、今後も国有林と民有林の橋渡し役として現状をよく見極め、何ができるか、何をしたらよいかベターな判断ができるよう自己研鑽に努めつつ、後進の育成にも力を注いでいきたいと思っています。





国民に親しまれる、多様な森林の 維持・管理に向けた取組について

四国森林管理局 嶺北森林管理署

はじめに

近年キャンプ等の人気が高まり、今まで登山等に興味が無かった様々な世代の異なった登山スキルを持った方々が自然を楽しむようになってきました。

多様な方々が多様な森林に対して、安全に親しんでいただくための取組として、嶺



工石山 白鷲岩からの眺望

工石山自然休養林

「工石山自然休養林」は、高知市と土佐町にまたがり、土佐湾へそぞろ鏡川と吉野川支流の地蔵字川との流れを隔てる分水嶺に位置し、地方自治体とも協力し、全国でも最初期の昭和45年度に自然休養林に指定されました。



工石山 グリーンサポートスタッフによる歩道修理

管内概要

所在地 高知県長岡郡本山町本山850

区域面積 300,837ha
うち森林面積 240,813ha
うち国有林面積 28,499ha

関係自治体 5市7町2村（高知市、南国市、香南市、香美市、本山町、大豊町、土佐町、大川村、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村）

嶺北森林管理署は、四国山地の中央部に位置し、「嶺北仁淀森林計画区」と「高知森林計画区」を管轄しています。

国有林の約60%がスギ、ヒノキを主体とした人工林で、主・間伐適期を迎える31～60年生が7割を占めており、この資源を活用して地域の森林・林業再生への貢献を旨として森林施業を実施しています。

一方、原生的な森林が残されている石鎚山系については森林生態系保護地域、白髪山における天然ヒノキ林は希少個体群保護林に指定しています。さらに、工石山や瓶ヶ森の自然景観に優れた天然林はそれぞれ自然休養林としてレクリエーションの森に指定しており、自然環境の維持形成、国民の保健及び休養の場の提供等、公益的機能のより一層の発揮にも努めています。

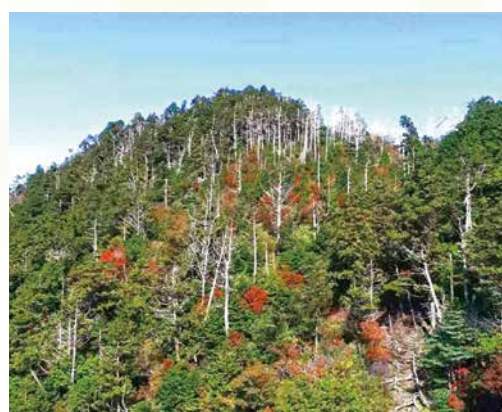


また、工石山の山頂（1176.5m）への登山道は緩やかで、途中には休憩所等も整備されており、子供からお年寄りまで気軽に登ることが出来ます。登山コースにおいては、植物学習やサンショウウオの観察が可能であり、季節毎の植物を楽しむことができる「県民の森」「市民の森」、また、「日本美しの森 お薦め国有林」としても親しまれています。

また、白髪山の山頂（1176.5m）への登山道は緩やかで、途中には休憩所等も整備されており、子供からお年寄りまで気軽に登ることが出来ます。登山コースにおいては、植物学習やサンショウウオの観察が可能であり、季節毎の植物を楽しむことができる「県民の森」「市民の森」、また、「日本美しの森 お薦め国有林」としても親しまれています。

白髪山天然ヒノキ林

白髪山は、四国のほぼ中央部に位置し、山頂からは石鎚山系や剣山系の絶景が望めます。近年では、高知県出身の植物学者牧野富太郎博士が国有林職員と散策した山としても紹介されています。白髪山の天然ヒノキ林は、大正4年10月に保護林制度に基づき初代保護林に指定されるなど、歴史ある自然豊かな森林で、山頂付近にある立ち枯れた数千本のヒノキ白骨林が有名です。



白髪山 ヒノキ白骨林



工石山 グリーンサポートスタッフによる危険木表示

があり、高知県の天然記念物に指定されるところに、地元本山町の森林・林業ビジョンにおける「なないろの森」の一つ「神聖の森」として位置づけられています。

このほか、白髪山には、ブナ、ケヤキ等の天然林や、シャクナゲ群落もあり登山者を楽しませてくれます。

白髪山はやや急な路程や足場の悪い谷を縦走するコースもあり、登山に経験のある方が楽しむ山となっています。嶺北森林管理署では、グリーンサポートスタッフにより、登山道の整備、看板表示、登山者案内、動植物の保護、ごみ拾い等を実施しています。しかしながら、白髪山においては、山頂まで携帯電話が通信不能のコースがあるほか、登山ブックに紹介されているが林道不通で利用できないコースがあることが課題となっています。今後も地元との情報交換を行い、正確な情報の発信に努めてまいります。

おわりに



八反奈路 根下がりヒノキ

工石山は子供からお年寄りまで親しんでもらう身近な山、白髪山は登山に経験のある方が楽しむ山となっており、2つの山の性格は異なりますが、同じように国民に親しまれる山となっています。今後とも嶺北森林管理署では、登山者等利用者に安全に自然に親しんでいただくため、高知県や高知市工石山青少年の家、地元の高知市及び本山町と情報交換しながら登山道等の状況把握と情報の共有を行い、登山者に対しても正確な情報の発信や歩道整備、案内板の整備等に取り組んでまいります。

皆さんも機会がございましたら、ぜひ「工石山自然休養林」や「白髪山」へお越しください。一方で、山の天候等状況は急変することもあります。利用者の方も決して無理をしないよう安全にご利用いただきたいと考えていますので、宜しく願います。

令和6年度こども霞が関見学デーを開催しました！

Topics

4

「こども霞が関見学デー」は、子どもたちが夏休みに広く社会を知る機会を提供するとともに、政府の施策に対する理解を深めてもらうため、各府省庁等が連携して開催するイベントです。

農林水産省では、8月7日と8日に会場参加プログラムを実施しました。

林野庁は、「おやまの小さななかまたち」と題した、メンマの試食や乾しいたけすくいなど、きのこ等特用林産物と触れ合えるプログラムのほか、国産スギの削り華を用いて、環境にやさしいストローを作る「木のストローを作ろう」や、森林インストラクターから樹種ごとの特徴等をワークショップ形式で学べる「木とあそび・木を学んで樹木博士になろう！」を実施しました。



おたまですくった乾しいたけをお持ち帰り



削り華を芯棒に巻き付けて木のストローを作成



森林インストラクターから身近な植物の見分け方の説明を受ける

また、7月2日から8月31日まで特設Webサイト「マフ塾」(2024)にて、オンラインプログラムを公開しました。ここでは林野庁の2つのプログラムについて、その一部をご紹介します。

マンガやクイズで
山や林業について
学ぼう！



マンガやクイズで山や林業について
学ぼう！

山や林業、木の文化について、マンガやイラストを読んでクイズに挑戦してみよう！

クイズ！～木になることがてんこ森！～

木になることがてんこ森！クイズ

スタート！



「木づかい」しよう
木を使うのは
良いこと？



「木づかい」しよう～木を使うのは
良いこと？～

森の木を伐って使うのは環境にやさしい？日本の木を使うことがなぜ良いことなのかについて学びましょう！

3. 木づかい動画～サザエさんに聞いてみよう～

森林資源の確保や森林が果たす役割について、森林の職人 薩摩のサザエさんに聞いてみよう！





「ミス日本みどりの大使」とは

公益社団法人国土緑化推進機構Webサイト「みどりの大使」

(<https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/midorino-taishi2024-0209.html>)



7月末に第55回岩手県緑の少年団大会に参加しました。植樹や林業機械の実演など、自然から多くのことを学べる大会でした。ここでは、こどもたちから「学校林」という言葉を初めて教わりました。幼い頃から学校林が近くにあるため、探検や遊び場として素晴らしい刺激を得られるのだと、こどもたちのお話を聞きながら思いました。

第55回岩手県 緑の少年団大会



みどりの 大使が 行く!



2024

ミス日本
みどりの大使

安藤 きらり



8月頭には、第21回やどりき水源林のつどいに参加しました。このイベントでは、水源林トレッキング、森林癒やし体験、水

第21回やどりき水源林の つどい



た。学校林も利用して、今大会のような森林体験の機会を増やして欲しいと思います。
200名もの岩手のこどもたちにとって宝物のようなこの大会が、これからも続いていくこと、そしてより多くのこどもたちの参加があることを心から願い、応援しております。

やまなしで過ごす 「山の日」フェスタ2024

8月11日山の日には、山梨県の清里高原にある山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセン



生生物観察、その他様々な体験ブースや物販ブースが出展され、まるで縁日のお祭りのように開催されていました。式典では司会を務め、綺麗な川を横目に自然溢れる空間でお話しさせていただきました。
今回はたくさん生物に出会いました。中でも、生まれて初めてのヒルは衝撃的でした。映画『WOOD JOB!』の劇中で、ヒルに噛まれて血まみれになるシーンがありました。それと同じ光景をみてしまふこととなり「こんなに血が出るんだ!」と驚きました。山に行く際、気をつけるべきことは数多くありますが、その中でもヒル対策は必ずしなければいけないと改めて感じました。
水源林は、森林の水源涵養機能をと引き発揮しています。水資源の貯留、洪水の緩和、水質の浄化など、私たちの生活には欠かせない機能です。これからも森林を大切に育て、綺麗なみどり、そして水が守り続けられるように願っています。



ターにて、ガイドウォークのお手伝いをしてきました。ガイドウォークとは、センター付近を散策しながら、レンジャーと呼ばれる自然解説員が自然の魅力を紹介するアクティビティです。今年のみどりの日に、NEAL（自然体験活動指導者）の資格を取得した以来の清里でした。ガイドウォークでは、モミの香りを楽しんだり、ツタウルシの特徴を習ったり、森林浴をしていきます。五感を最大限に活用して、自然を感じることができました。参加者の方々の「時間があつという間だった」という嬉しいような声が印象的です。
ミス日本の任期も後半戦に突入しました。NEALの資格も活かして、多くの方々に自然の魅力を伝えてまいります!



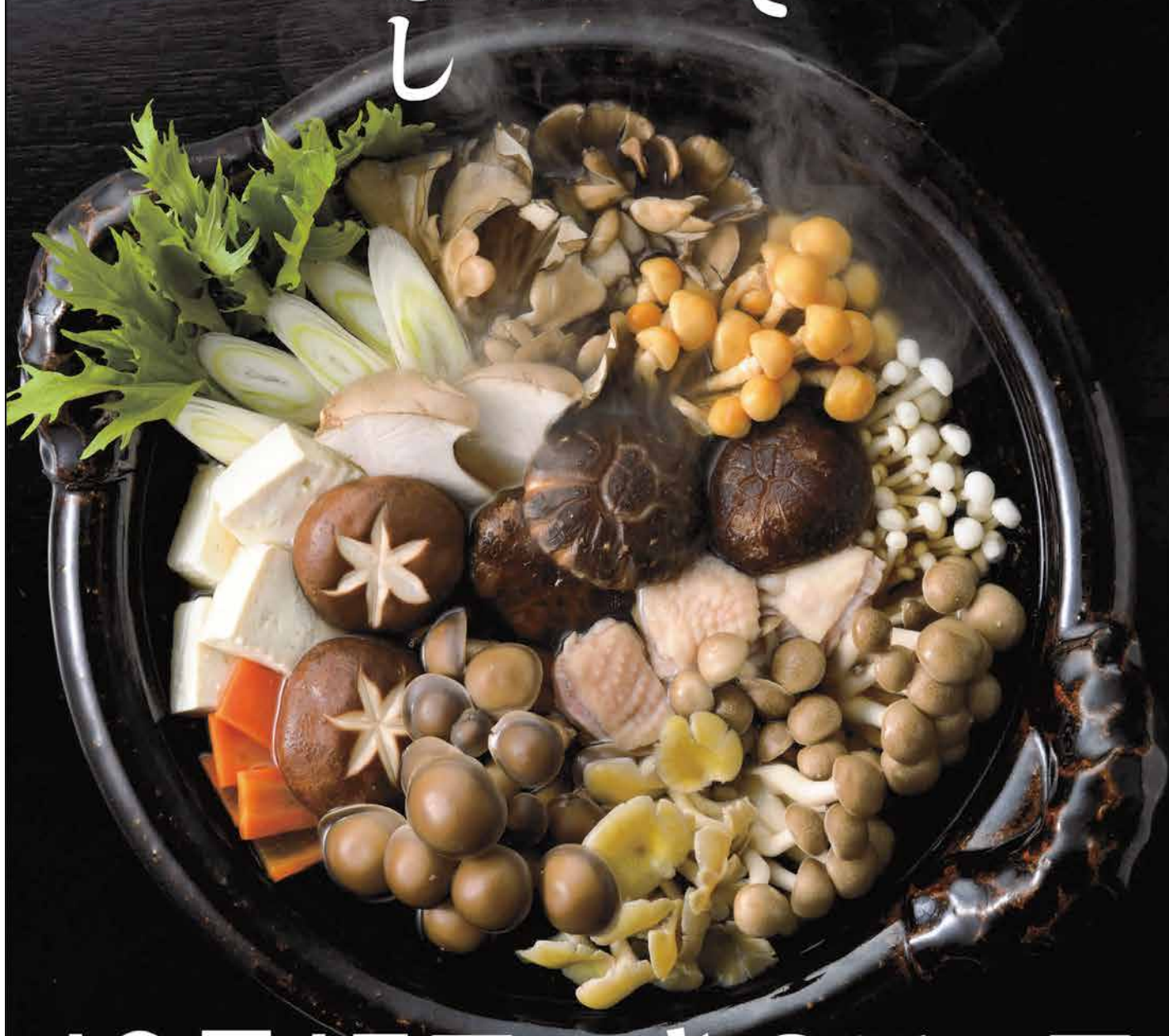
きのこの日

きのこ料理のある

おいしい食卓には

幸福な笑顔が集まります。

おもてなし



10月15日はきのこの日

日本特用林産振興会

人と森をつなぐ情報誌